

MIYOSHI

50th Anniversary



東京2020オリンピック・パラリンピック特集

Tokyo 2020 Olympic and Paralympic Games



走った日
7月6日
走った場所
三芳町

三芳町民聖火リレー走者
和光国際高校1年生
三木 峻翔さん

オリンピック聖火リレーが 三芳町で行われました

2021年7月6日(火) オリンピックの聖火が町を
駆け抜けました。

富士見市から受け取った聖火は、町のメイン通り
である「みらい通り」を走り、江戸時代から続く「川越
街道」を駆け抜け、ふじみ野市へつながりました。

On Tuesday, July 6, 2021, the Olympic Torch Relay passed through
our town.

The torch—received from Fujimi City—was carried along Mirai-dori
(the town main street) and passed along Kawagoe Kaido, a pathway
dating back to the Edo period, connecting onward to Fujimino City.



Photo by TOKYO2020



三芳町民聖火リレー走者



走った日
7月7日
走った場所
春日部市

デフフットサル* W杯日本代表
酒井 藍莉さん
※聴覚障がいがある人のフットサルやサッカー



走った日
7月8日
走った場所
さいたま市

藤久保中学校2年生
佐藤 美心さん



走った日
7月8日
走った場所
久喜市

和太鼓奏者・書道家
塚本 鷹さん



走った日
8月19日
走った場所
朝霞中央公園
陸上競技場

パラリンピック聖火ランナー
相川 悟さん

はじめに

2020年11月3日、三芳町が生まれて50年を迎えました。
この三芳町を創り上げ、継承してきた歴史、文化、伝統、自然、

先人たちに感謝するとともに、

次の100周年に向けて住民の皆様とさらに魅力的で

活力ある三芳町を創造していきます。

Introduction

On November 3, 2020, Miyoshi Town celebrated
the 50th anniversary of its establishment.

We express profound gratitude to our predecessors,
who created Miyoshi Town and have passed on its history, culture, traditions, and nature.

Toward the next centennial, we aim to create an even more attractive
and vibrant Miyoshi Town along with all its residents.

CONTENTS

- 1 はじめに
- 2 東京2020オリンピック・パラリンピック特集
- 5 写真でみる 三芳の四季
- 9 三芳町10の魅力
- 31 数字でみる 三芳町
- 33 三芳町50年のあゆみ
- 35 昔懐かし ふるさとアルバム
- 39 いいね「♥」みよし
- 41 おわりに



三芳町柔道連盟の中学生たちと淑徳大学女子柔道部と交流



全小中学校をバスで巡回訪問し、子どもたちの声援を受けるオランダ選手



役場前にてホストタウン応援サポーターが集まり、選手村へ送り出しました



柔道女子70kg級
銅メダル獲得

町に来てくれたサンネ・ヴァン・ダイク選手(中央)
テシー・サフェルクス選手(右から2番目)

オランダ 女子柔道チームの 事前トレーニング キャンプを実施しました!

三芳町はオランダのホストタウン。オリンピック大会の最終調整のため、令和3年7月17日(土)から7月23日(金)の間、オランダ女子柔道チームが三芳町で事前キャンプを行いました。淑徳大学でのトレーニングのほか、小中学生との交流を行うなど、リラックスした万全の状態で大大会へと送り出しました。大会では70kg級のサンネ選手が銅メダルを獲得しました。

【動画】

事前キャンプの様子



事前トレーニングキャンプの様子



選手たちが宿泊するホテルでは別室からオンラインによる歓迎セレモニーを実施



閉会式当日、町を表敬訪問したマレーシアパラリンピック委員会のメガット会長、スプラマニアム事務総長。今後の交流について意見交換しました

- 金メダル:** パワーリフティング男子72kg級(低身長) ポニー・ブンヤウ・アナック・ガスティン選手
陸上走り幅跳びT20(立位、知的障がい) アブドゥル・ラティフ・ビン・ロムリー選手
バドミントン男子シングルスSU5(上肢障がい) チェア・リク・ハウ選手
- 銀メダル:** パワーリフティング男子107kg級(下肢障がい) ジョン・イー・キェ選手
ボッチャ混合個人・チームBC1(運動機能障がい) チュー・ウェイ・ルン選手

パラリンピックマレーシア選手団、メダル5つ獲得!

三芳町はマレーシアの共生社会ホストタウン。マレーシアパラリンピック委員会と交流協定を結び、オンラインを通じてパラリンピック選手団と交流を深めました。同国からは9種目22人の選手が大会に参加。障がい乗り越えて限界へ挑戦する姿は、世界中に勇気と感動を与えました。



応援ありがとうございました!

Hiroki Motoki



元木選手は第25・26・27回世界選手権大会日本代表に選出され、社会人選手権最優秀選手賞を受賞しているハンドボールの一流選手。シュートのバリエーションとスピードに定評がある「大崎オーソール」のサウスポーターです。

日本は予選最終戦のポルトガルに見事勝利! 33年ぶりにオリンピックでの勝利を飾りました。惜しくも、得失点差で決勝トーナメントに進むことはできませんでしたが、元木選手は予選リーグ全試合に出場し、デンマーク戦ではチーム最多の8得点を決めるなど、持ち前の力を遺憾なく発揮してチームに貢献しました。

三芳町民 オリンピック出場者の紹介

元木 博紀 選手

種目 ポジション
所属 ライトウイング(RW)
大崎オーソール



— 写真で見る三芳の —

四季

— Photos of
the Four Seasons in Miyoshi —

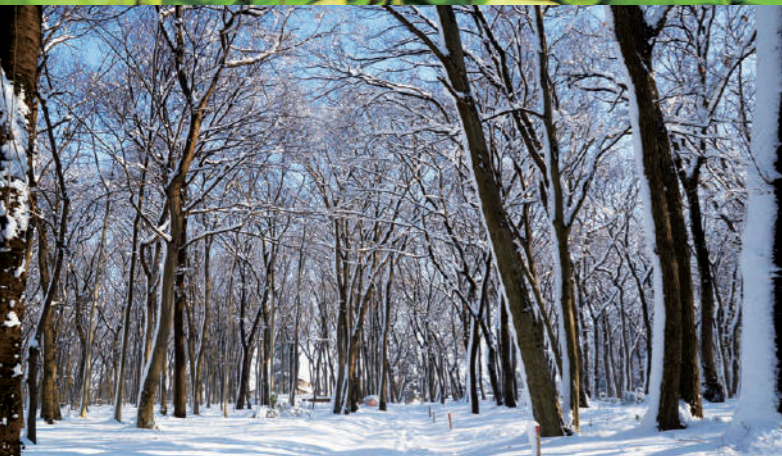


5		1	
6	7	2	3
		4	

- 1 春・町役場前の桜並木
- 2 春・菜の花
- 3 春・新緑の美しい緑地公園の平地林
- 4 初夏・ホテルが舞うこぶしの里
- 5 夏・一面に広がるサツマイモ畑
- 6 夏・みよし祭りの花火
- 7 夏・ひまわり
- 8 夏・そば畑

		9
13	10	11
14	15	12
16		

- 9 秋・町民体育祭
- 10 秋・サツマイモ
- 11 秋・平地林の紅葉
- 12 秋・多福寺
- 13 秋・世界のいも掘りまつり
- 14 冬・雪化粧をした緑地公園の平地林
- 15 冬・落ち葉はき体験
- 16 冬・雪が一面に広がる町役場前の運動公園グラウンド



三芳町
10の魅力

子育て

Raising Children

三芳町では「みんなで健やかに育てよう、三芳の子どもたち」を基本理念として、「子育てするなら、みよし」と実感してもらえることを目指し、様々な子育て支援に取り組んでいます。

Miyoshi Town is engaged in various forms of support for child-rearing, founded on our basic philosophy of "raising healthy Miyoshi children together," for people to experience "Miyoshi, an ideal place to raise children."



豊かな想像力と感性を育むまち

時代の変化に対応する教育の推進

グローバル化に対応する力を育むため、各学校ではALT※を配置し、外国語教育の充実を図っています。学校ICT環境の整備や活用を推進し、児童生徒の情報活用能力を育成。また、環境教育、資源・エネルギー教育等、社会的課題に対応する教育を推進しています。

※ALT: Assistant Language Teachers略
小中学校の外国活動、英語の授業で教師を補助する外国人助手。

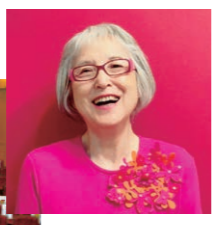
中学生海外派遣

ホームステイや現地校との交流など、豊かな体験を通して国際感覚を育てるとともに、海外からの親善訪問団を受け入れ、多文化共生の理解を深めています。平成9年〜20年はオーストラリア、平成24年からマレーシア、令和元年度からオランダへ派遣・交流しています。マレーシアは、私立学校APSS(アジア・パンフィック・スマート・スクール)と、姉妹都市であるペタリング・ジャヤ市のリーダーシッププログラムに参加しました。



読書好きな子どもを育てるよみ愛・読書のまち

町では、ブックスタート(4カ月児やブックスタートプラス(2歳6カ月児)、図書館のおはなし会、保育所・児童館・公民館での読み聞かせの会、全小中学校での「朝読書」、図書館司書のブックトーク学校訪問などを活発に実施。児童書専門司書を育成して読書の輪を広げてきた図書館は、平成14年と26年に「子ども読書活動優秀図書館」として文部科学省から表彰されました。町は、平成28年に「よみ愛・読書のまち宣言」をし、「魔法の宅急便」の著者、角野栄子先生の記念講演会を開催。宣言5周年の令和3年にも角野先生にご講演いただきました。



よみ愛・読書のまち宣言
毎月23日を「よみ愛・読書の日」と定め、家庭・学校・地域・公民館・職場・読書や読み合いの輪を広げます



子どもたちの健やかな体と心を育む食育

離乳食講座や両親学級などを通じ、赤ちゃんが産まれる前後から、正しい食を学べます。保育園や小学校の給食では地産地消を意識して、みよし野菜をたくさん使用。給食を通じて、ふるさと三芳町に愛着と誇りを持って感じてもらう、農家の皆さんや給食を作っている人などへの感謝の心を育てています。



児童館・公民館のイベント

子どもたちの成長に必要な遊びを異年齢児童の中で幅広く体験し、地域や年齢の差を越えて人の関わりを学び、心と体の健全な発達を促しています。また、様々な行事に参加することにより、子どもたちが興味関心を広げ、チャレンジする心と根気を育てています。行事の企画立案、実施に子どもたちが自ら携わることで、達成感と感動が得られるように努めています。

- 工作教室・手芸教室・お料理教室・映画会・卓球教室・ゲーム大会・一輪車教室・こま大会・季節の行事等

子育て支援センター

保育士、子育て経験者等が常駐しており、子育て家庭の親子が安全に遊び、他の利用者と知り合いになれるよう支援するほか、親子で楽しめる様々な活動を行っています。また、子育てに関する相談も行っています。



保育所・放課後児童クラブの充実

待機児童解消だけでなく、子育て相談窓口や交流拠点など保育施設の多機能化を進めています。放課後留守家庭の小学生の健全な育成のため、楽しく遊んで学ぶ保育を実施しています。

こどもの頃から本物の音楽にふれ、奏でる

子どもたちが音楽好きになる機会を提供する「アウトリーチ活動」を積極的にを行っています。一流演奏者による役場ロビーや古民家、病院などでの「ロビーコンサート」、全小学校5年生を対象とした音楽室での歌や楽器演奏の鑑賞、全中学1年生を対象としたコピスみよしの鑑賞会などを実施しています。

町立全中学校では吹奏楽部が盛んに活動し、コンクール出場や各種演奏会などを開催。老人ホームや幼稚園への出張演奏や3校合同での演奏会の実施など外部との交流も積極的に行っています。



子ども大学みよし

地元・淑徳大学と連携し、専門家の指導のもと、小学校高学年を対象に子どもの考える力や生きる力を身につけ、郷土を知る機会を提供しています。



ジュニアボランティアリーダー

町の中学生・高校生を対象としたグループで、約50名のメンバーが在籍し、学校行事や部活と両立しながら年間を通して楽しく活動しています。

町の事業のお手伝いをしながら、ジュニアボランティアリーダーとしての自主性や協調性を育てています。



I♥MIYOSHI

三芳町連合PTA連絡協議会 会長
藤久保小学校 PTA会長
多胡 晴子さん



5人目が生まれたのを機に都内から地元である町へ戻って来て、最初感じたのが「葉っぱの匂い」。自然豊かで、高い建物のない三芳町は気持ち的にもゆとりを持って子育てできる気がします。子どもたちはよく公園で遊んだり、図書館や児童館を利用したりしています。久しぶりの地元だったので、知り合いを増やしたいと思いPTA役員になりました。今年で5年目。学内はもちろん学外にもたくさんの方々と知り合う機会に恵まれ、まちづくりに参加したり、ボランティア団体を設立して子どもの居場所づくりを行ったりしています。

三芳町
10の魅力
...
自然・環境
Nature and Environment

先人から受け継いだ美しい平地林と農村風景が残され、豊かな緑と自然を感じられます。関東ローム層に覆われた平坦な大地で、地震等の災害にも強い地域です。

Our town is endowed with well-preserved beautiful flatland forests and rural landscapes inherited from our predecessors. You can feel the rich nature and greenery. The land is a flat plateau covered by a layer of Kanto loam. It is well known that the area is resilient to earthquakes and other natural disasters.



東京にいちばん近い
自然豊かなまち

みんなでつなぐ、
まもる町の自然

今も町に多くの自然が残っているのは、農家をはじめ、先人たちが代々受け継ぎ、平地林や生態系を守っている人びとがいるからです。
緑のトラスト保全第14号地「藤久保の平地林」を整備・保全し、緑豊かなまちづくりのためにグリーンサポーター隊が活躍しています。「竹の子エコクラブ」は、小学生に自然体験や環境教育活動を実施しており、町の自然とそその大切さを次世代に継承しています。



東京に一番近い町
埼玉県南西部・武蔵野台地の北東部に位置する三芳町は東京に一番近い町。池袋駅から最寄りのみずほ台駅までわずか約30分。関越自動車道で練馬から三芳パーキングエリアまで約20分。その立地の良さから、高度経済成長とともに首都近郊のベッドタウン、首都圏の流通拠点として発展してきました。東京から30km圏内にありながら、毎年たくさんの方が見られ、武蔵野の面影を残す平地林の豊かな自然をいっぱい感じる事ができるのも町の魅力の一つです。



令和の森公園「せせらぎ水辺広場」
藤久保1120-1

役場前の運動公園に隣接する新しい公園です。水遊びができるほか、他の公園にはないバーベキュー施設があります(要予約)。多くの木々に囲まれ、木漏れ日のおかげでベンチに座り、休むことができます。憩いの場です。夏はセミやカブトムシなどの昆虫採集する子どもたちの姿が見られます。



竹間沢「こぶしの里」
竹間沢1081-1 ほか

こぶしの花が咲く竹間沢「こぶしの里」。3月下旬から4月上旬にかけて、白い可憐な花が咲きます。斜面林の中に散策道が設けられ、湧水が池や小川に流れ込んでいます。ザリガニ釣りや昆虫採集、風景を写真に収める人も。

初夏にはホタルが舞い、林に囲まれた東屋で自然を満喫することができます。近隣には町内で最も広い竹間沢公園があります。



自然スポット

農業遺産を巡る3つの散歩道

「農業遺産を巡る3つの散歩道」とは、世界農業遺産の認定を目指している武蔵野地域内(三芳町上宮)に設置された3種類の散歩コースであり、誰でも自由に歩くことができます。歴史の道コース、人と農の道コース、平地林コースの3つがあります。詳細は、右側のQRコードからご確認ください。



緑のトラスト保全第14号地「藤久保の平地林」
藤久保1114-3 ほか

埼玉県の優れた自然や歴史的環境を後世に残す「緑のトラスト運動」。第14号地「藤久保の平地林」は、町内企業や地域住民等の寄付金により公有地化して守られ、平成30年4月より一般公開しています。

令和の森公園に併設されており、誰でも気軽に足を運べ、自然と緑を体験できます。江戸時代より続く貴重な平地林を子どもたちに残していくため、町はトラスト保全地の整備、保全、活用等を推進しています。



I♥MIYOSHI
竹間沢ほたる育成会
会長
古寺 貞之さん



私が子供の頃は夏になればホタルが普通に飛んでいて、そんなかつての風景を今の子供たちに伝えたくて「竹間沢ほたる育成会」を結成しました。こぶしの里の清掃や幼虫の放流、ホタルの飛翔地見学と研修活動をしています。20年近く続けられたのは、毎年、子供たちが感動してくれる姿があるからこそ。現在のメンバーは30人ですが、若い方にも入会して頂き、沢山のホタルを飛ばしたいですね。



子どもたちに自然の大切さを

三芳町
10の魅力

産業

Industries

都市近郊農業が盛んであり、東京から30kmという大都市近郊の便利で恵まれた環境は、企業立地に最適です。町内には多くの事業所が在り、多くの方が町へ働きに来ています。

Home to thriving suburban agriculture, the area is blessed with the convenience of proximity to a metropolis—being just 30 kilometers from Tokyo—making it an ideal business location. There are many offices in the town, and many people come to Miyoshi for work.



活力と賑わいあるまち

農業

「武蔵野の落ち葉堆肥農法」

平地林の落ち葉を発酵させて畑の肥料とする、江戸時代から300年以上続く伝統農法です。これにより、火山灰に覆われた農業には適さない土壌を改良し、安定的に作物を栽培できるようにしました。世界でも数少ない大都市近郊における農業遺産として国内外から高く評価されており、平成29年に日本農業遺産に認定されました。現在は世界農業遺産認定に向け、「武蔵野の落ち葉堆肥農法世界農業遺産推進協議会」より、FAO(国連食糧農業機関)へ世界農業遺産認定申請書を提出しました。「世界農業遺産国際会議2021」では、世界農業遺産がSDGs(持続可能な開発目標)の達成、気候変動の緩和、生物多様性の保全など世界的課題の解決に貢献することの確信や提言が多くありました。世界農業遺産の認定を目指す地域として、持続可能な社会の実現への使命と役割を果たしていきたいと考えています。

※川越市・所沢市・ふじみ野市・三芳町の三市一町と埼玉県・JAいるま野



【PR動画】

農業遺産



みよし野菜

町の農業は首都30km圏内、畑作中心の都市近郊農業として、県内多数の農業生産額を上げています。みよし野菜は、歴史ある三芳の大地が育んだ美味しく高品質な野菜です。若手農業者で構成される「みよし野菜ブランド化推進研究会」は、みよし野菜の味と品質を広く知ってもらうため、ブランド化に取り組んでいます(PRイベントの実施、レシピ開発など)。安心安全で高品質なみよし野菜をぜひご賞味ください。

若手農業後継者

町には農業に対する誇りと熱いスピリットを併せ持つ若手農家が多く育っています。また、農業後継者で組織する団体が三芳4Hクラブをはじめ多数あり、県内でも若手農業者が大変多い地域で、技術と情報交換を通じて町の農業発展のために奮闘しています。



工業

企業立地に最適な町

町は地盤が強く地震に強く、河川もなく災害に強い風土であり、安心して事業を展開できる、企業立地に最適な地域です。町内に、関越道の三芳スマートIC、近隣には所沢IC・川越ICがあり、圏央道や外環道へのアクセスにも優れています。現在、三芳スマートICはフルインター化の整備を進めており、これにより、高速道路網の利便性がさらに高まり、物流面に優れた企業立地にも期待が寄せられます。こうした背景から、工業・流通地域として発展し、現在でも町には有名企業の工場や物流拠点など多くの事業所が展開しています。

商業

町民の生活を支える元な商店街

町には、「黒おび商店街」と県に認定された「藤久保中央通り商店会」があり、町の活性化のために活躍しています。また、商工会とまちづくり協議会が中心となって、三芳町産の菜種を100%使用した「みよしなたね油」を開発し、「彩の国優良ブランド」に認定されるなど、町では地域活性化に向けた様々な取り組みが進められています。



6次産業

みよし野菜や狭山茶などの生産者による、農産物の加工・販売・流通への取り組みも盛んです。町は「6次産業プラス支援事業」を展開し、農業と農産物の付加価値を高め、町ならではの観光や体験などをプラスした6次産業化を推進しています。商品によっては季節限定のものもありますので、各店舗へお問い合わせください。



観光情報ページのみよし野菜加工品



ふるさと納税でも人気

町の産品品の一例



加工食品

顕微鏡

ギター

I♥MIYOSHI

みよし野菜
ブランド化推進研究会 会長
浅沼 克己さん



「みよし野菜ブランド化推進研究会」は、今年で設立10年目。ロゴマークは全国から募集をかけて採用しました。馴染みやすいデザインと好評を得ています。先日のオリンピック開催時には、オランダチームが宿泊するホテルのレストランに、みよし野菜を提供させていただきました。選手の活躍につながっていただければ嬉しいです。今後は町内だけでなく、日本全国にみよし野菜が知れ渡るように、尽力していきたいと思っています。



三芳町
10の魅力
観光
Tourism

江戸時代より受け継がれてきた土地から生まれる「富の川越いも」
「狭山茶」「みよし野菜」。菜の花やコスモス、そばの花など様々な花を愛で
ながらの散策、自然や農業を体感できるグリーンツーリズムも盛んです。

Since the Edo period, the region has produced Tomi-no-Kawagoe sweet potatoes, Sayama
tea and assorted "Miyoshi vegetables". Ecotourism flourishes, including experiences of nature
and agriculture and walks amid field mustard blossoms, cosmos, and buckwheat flowers.



きて、みて、体験する
魅力あふれるまち



旧島田家住宅
世界農業遺産認定申請中の「武蔵野の落ち葉堆肥農法」の拠点施設にもなっています
住所 上富1279-3 (旧島田家)
駐車場あり 休館日 月曜日・祝日
☎ 258-6655 (文化財保護課)

旧池上家住宅
旧池上家は歴史民俗資料館の敷地内に展示されています
住所 竹間沢877 駐車場あり
開館時間 9:00~16:30
休館日 月曜日・祝日
☎ 258-6655

古民家
「旧池上家」は江戸末期から明治初頭に建築され、「旧島田家」は江戸時代文化・文政年間に建築されたものと推定されています。古民家の中に入ると囲炉裏の炎とたちのぼる懐かしい香りが漂い、訪れる人を包み込みます。夏の時期は、外に比べてひんやりと涼しさを肌で感じることが出来ます。かやぶき屋根、土でできた壁。機械のない時代に、暑い夏を乗り切るために考えられた先人の知恵が古民家には詰まっています。どなたでも古民家の中を見学できます(月曜日、祝日を除く)。

写真映えもばっちりな、
エモフォトスポット

ガーデンツーリズム推進中

コロナ禍でマイクロツーリズム(身近な地域への観光)へのニーズが増える中、武蔵野台地の地域が一体となり、里山の風景を作り上げ、調和の中で四季を感じる新たな庭園文化を親しむガーデンツーリズムを町は進めています。ご協力いただけるオープンガーデンも募集しています。



パサール三芳
2009年に開越自動車道車線にオープンしたPasar三芳(パサール三芳)。三芳町産の野菜も販売されているほか、ここでしか味わえない限定グルメは必食です。一般道から入場することも可能ですので、気軽にシヨッピングやグルメ、季節のイベント、物産展を楽しむことができます。

休日は2万人が利用する
町の人気スポット



三芳町川越いも振興会
伝統的な農法を守り、農業収益の向上や環境保全を実現する取り組みが評価され、平成27年度「第54回農林水産祭むらづくり部門」において天皇杯を受賞しました。三芳町川越いも振興会のサツマイモは「いも街道」で軒先販売されています。



受賞した天皇杯

最高賞にあたる
天皇杯を受賞

I♥MIYOSHI

**三芳町川越いも振興会
会長
早川 忠男さん**



希少品種である「紅赤(金時)」を残していくために発足し、振興に努めています。いもの販売シーズンになると、いも街道には県外からも多くの方が購入に来られます。帰りがけに多福寺や旧島田家住宅、食事処に立ち寄る方もいらっしゃいますね。メディアで取り上げられることもあって、全国から注文が入ります。たくさんの方に町へお越し頂き、町の特産物や自然など観光を楽しんで頂きたいです。

おすすめ散策コース
「いも街道」直売所ルートほか、春の「菜の花」、夏の「ホタル」「そば」など、四季折々、季節の香りを感じながら、ゆっくりお散歩できる散策コースはこちらから。

おすすめ散策コース

お散歩も楽しいよ!

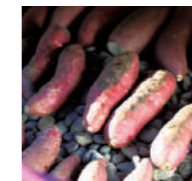
絶品! 町の特産品



観光情報ページの
グルメスポット

○富の川越いも

「川越いも」は川越地方でとれるサツマイモを指します。中でも上富地区で栽培されるサツマイモは「富の川越いも」として知られています。金時と呼ばれ、親しまれている紅赤は、皮が鮮やかな赤色で身は美しい黄色。ほくほくとした食感と上品な甘さを楽しめます。



○狭山茶

町で生産された狭山茶は、毎年行われる品評会で上位に入賞し、農林水産大臣賞を受賞、宮内庁に献上する品に選ばれるなど、その品質の高さは折り紙付きです。町内では賞を受賞した商品をはじめ、有機無農薬栽培のお茶、狭山茶を使用した様々な商品を購入できます。



○そば

町内には約20ヘクタールのそば畑が広がり、埼玉県有数の生産地となっています。三芳町産のそばは粘りが強く、十割そばにしても歯切れやのどごしの良さが特徴です。5月~6月の初夏と10月~11月の秋頃には、畑一面のそばの花が見頃を迎えます。三芳町産のそばをぜひ町内のお店でご賞味ください。



**サツマイモの
生産農家が連なる街道
いも街道**
町の特産品のひとつ「富の川越いも」。その生産を担う農家が軒を連ねるのが「いも街道」です。
シーズンになると、のぼり旗が立ち並び、サツマイモやみよし野菜の直売が行われます。サツマイモの販売時期は9月~12月頃。いも掘りを体験できる農家さんも。
ほかにもグルメや自然など様々な出会いと発見が待っています。



町民体育祭

毎年10月上旬に開催。各行政区対抗で行います。大人から子どもまでスポーツを楽しみ、健康と体力づくり、町民の交流を深めます。



世界一のいも掘りまつり

毎年9月末から10月はじめの土曜日に開催。約440mの世界一長い畝で行ういも掘りには、1,000人以上の参加者が集まる町の一大イベントです。



産業祭・農産物品評会

毎年11月第2土曜・日曜日に開催され、町内の農産物、工業製品など様々な商品が一堂に会します。産業祭ではみよし野菜の販売及び農産物品評会の表彰式が行われます。



町民文化祭

10月下旬から11月上旬にかけて開催。コピスみよしでのホールイベントと藤久保公民館での作品展示、小イベントを中心に行われる文化芸術の発表の場です。



体験落ち葉掃き

毎年1月上旬～2月にかけて、多福寺境内をはじめとする平地林において開催。150人以上の参加者が集まり、落ち葉堆肥農法に欠かせない落ち葉掃きを体験します。



福祉まつり

毎年11月下旬に実施。子どもから高齢者、障がいを持った人もみんなで助け合いながら楽しく生きるまちづくりを目指し、様々な催しを通じて相互理解を深めるイベントです。



新春ロードレース大会

毎年1月中旬に開催。親子の部、小学1年～3年の部男女、小学4～6年の部男女、一般の部男女に分かれて走ります。多いときは約500人が参加する年もあります。



1年間を通じて、住民が主役の様々な行事が開催されます。イベントに参加して町の魅力である三芳の自然・農業・食をぜひ体感してください。町外からのご参加もお待ちしております。

Various events that residents can be main cast are hold throughout the year. We hope visitors, including those from out of town, will participate in these events and experience the nature, agriculture, and food that are the charms of Miyoshi.



三芳町
10の魅力
...
イベント
Events

みよしまつり

毎年9月の第1土曜日に開催。家族や友人が集い、町が一つになります。フィナーレには約2千発の花火が、町の夜空を彩ります。



こどもフェスティバル

毎年5月第2土曜日に開催される子どもたちが主役のお祭りです。様々なイベントやゲーム、ステージパフォーマンスが催されます。



I♥MIYOSHI

三芳町民謡連盟 栗林 直江さん



子育てが落ち着いた40代の頃、民謡連盟に入り、踊りを始めました。みよし祭りでは流し踊り、鳴子踊り(よさこい)、和踊りを毎年披露しています。猛暑の中、和踊りは浴衣を着て1時間ほど踊り続けるので過酷ですが、町外からも多くの方がお越し下さる町の一大イベントを盛り上げたいという思いで踊っています。若い世代や新しい住民の方は、三芳音頭など知らない踊りもあるかと思いますが、ぜひ輪に入ってほしいと思います。みんなが踊ることで、町の踊りが子どもたちに継承されていき、行事の盛り上がりも次世代に受け継がれていきます。町民はもちろん町外の方にも町の様々な行事に参加して頂きたいですね。

【動画】
みよしまつり
の様子



楽しいイベントが
盛り沢山!



三芳町
10の魅力
...
まちづくり
Community Building

「良い町は良い政策から」をモットーに、住民の皆さまの積極的な参画による対話と連携を重ねながら各施策を推進。魅力にあふれ喜びいっぱい 幸せになれるまちづくりに取り組んでいます。

With our motto of "Good towns are formed by good policies," we promote each policy through repeated dialogue and collaboration involving the active participation of residents. We are striving to build a community filled with charm and joy, where people can be happy.



未来につなぐ
ひとまちみどり 誇れるまち

行政連絡区(行政区)への参加

行政区や自治会は、安心して暮らせる住みよい豊かなまちづくりのために欠かせないコミュニティ組織です。
町には、現在14の行政連絡区があり、その中に自治会、組、班、ブロックなどの自治組織があります。行政区は、町と地域住民を繋ぐ役割を担っており、地域に住む人々の身近な地域課題を解決する取り組みを行い、より住みやすいまちづくりを目指して活動しています。具体的には通学路の見守りや防犯パトロール、災害に備えた避難訓練や防災訓練、高齢者の見守り活動、環境美化活動、地域の夏祭りや体育祭・みよしまつりなど多岐に渡ります。災害につよく、犯罪のおこしにくい地域コミュニティの一員として、ぜひ、行政区・自治会に加入しましょう。行政区への加入方法はQRコードをご確認ください。



行政区、自治会等
QRコード

サステイナブルなまちづくり

感染症対策、人口減少、SDGs、インフラの老朽化など、様々な社会情勢に応じた対応が必要となります。こうした中で、社会、環境、経済、財政面において、持続可能なまちづくりを進めていくことが重要です。
町では財政サステイナビリティ宣言を行い、将来を見据えた財政運営に取り組んでいます。そして、共生社会の実現、緑の保全、GIGAスクール構想の推進、公共施設マネジメントの遂行、企業誘致・留置など、一人ひとりの命と尊厳、生活を守り、美しい環境保全や未来の人材育成、財政基盤の強化に至るまで、多種多様な施策を展開し、誰もが暮らしやすく、誇れる町を未来に継承します。



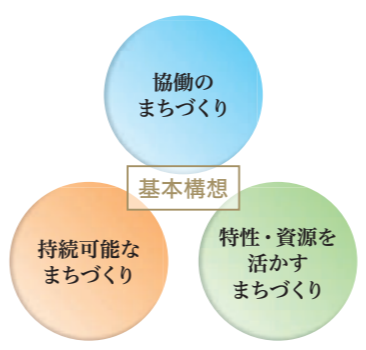
みよしSDGs

「誰一人取り残さない」という理念のもと、貧困や不平等・格差、気候変動などの問題を解決し、よりよい世界を目指すため、国連は2030年までの持続可能な17項目の開発目標(SDGs)を定めました。
町は第5次総合計画後期基本計画(2020年度〜2023年度)においてSDGsと各施策分野を関連づけ、持続可能なまちづくりの推進に取り組んでいます。
また、日本農業遺産の「武蔵野の落ち葉堆肥

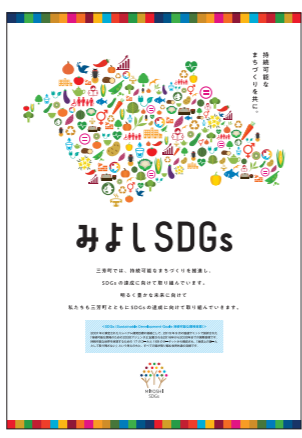
【まちづくりの基本理念】

- 1 協働のまちづくり
第4次総合振興計画で掲げた「協働のまちづくり」の理念は第5次総合計画でも引き継ぎ、さらなる深化を図ります。財政制約を背景に公助の拡大が難しくなるなか、住民ニーズの多様化・高度化に即応する自助・共助の拡大を図ります。
- 2 持続可能なまちづくり
限りある資源と地球環境を守りながら、財政制約や人口減少など社会情勢に対応した町の発展を目指します。社会・経済・財政面を含めて持続可能なまちづくりによって、三芳町のもつ良好な環境を確実に将来世代に継承することを重視していきます。
- 3 特性・資源を活かすまちづくり
「東京に一番近い町」「昼夜間人口比率が県内トップ」「平地林が支える三富新田の循環型農業」「自然災害が少ない町」など、三芳町の特性や資源を活かし、小さいながらもきらりと輝く独自の個性的なまちづくりを目指します。

【町の将来像】



農法は三芳町特有のSDGsの取り組みとして注目されているところです。町ではSDGsに取り組み個人や団体を募集する宣言制度を設け、一つひとつの取り組みをつなぎ、地域全体で実現する機運を醸成しています。
※SDGs(エス・ディー・ジーズ)・国連で採択された国際目標「Sustainable Development Goals/持続可能な開発目標」



みよしSDGs宣言制度
QRコード

まちづくり懇話会

多くの住民の声を町の政策形成に反映させるため、毎年開催しています。まちづくり懇話会では、まちづくりに関する取り組み状況や地域の個別テーマ、住民の皆さまからのご意見やご提案について、町長を交え住民の皆さまと意見交換・情報交換を行っています。



みよし machi JAM

「JAM」とは、「ジャムセッション」の略語で、つろいだ気分で行う即興演奏またはその集まりのこと。みよし machi JAMでは、「気心知れた仲間たちと、本音に近い話をのんびり気楽に語り合う場所」をコンセプトに町長を交え、気心知れた少人数メンバーと三芳町の未来をテーマに意見交換を行っています。



協働のまちづくりネットワーク

住民と町が対等の立場で協働してまちづくりを推進するために、平成20年9月に設立されました。現在は様々な分野で魅力ある安心な三芳町をつくるための活動を行っています。

協働のまちづくりネットワーク
埼玉県三芳町
QRコード



アフターコロナの未来のまちづくり

「コロナ後の自治体は、東京に近く、自然と農業と食のある町の時代」
コロナ禍では、新しい生活様式に合わせ、様々な価値が見直されています。移動が制限される中では、都市近郊への移住やマイクロツーリズムを求める需要も高まっています。こうした中、三芳町は雑誌「アエラ」等のメディアから高いポテンシャルを評価いただいているところです。
アフターコロナの時代において、新しい価値のもとに町の資源や特性を魅力として高め、地域の活気を創出していきます。そして、様々な価値観を共有し、継承する誇りとともに、明るい未来を創ります。



I♥MIYOSHI
三芳おなかま子ども食堂
代表
飯塚 結花さん

私は子ども食堂や、居場所づくりを行っています。何かしらの困難を抱えたご家庭だけでなく、どなたでも参加でき、地域ぐるみで子育てや見守り支えあいができる、もっとインクルーシブ(包摂的)な活動です。大きなことをしなくても、挨拶や声掛け、ボランティアやお手伝いなどできることから繋がりあうことで、誰一人取り残さない、やさしい地域になることを願っています。

住民の国際理解や国際感覚の醸成を図り、また子どもたちのグローバル社会への対応力を育むため、姉妹都市や東京2020大会ホストタウン相手国との交流を継続し、共に発展できるよう関係を強化しています。

To foster international understanding and cosmopolitan attitudes among the residents and to nurture in children the ability to respond to a global society, we aim to continue exchanges with our sister cities and other partner countries as a host town of the Tokyo 2020 Olympic Games, working to enhance our relations for mutual development.



異なる文化を
理解し、尊重できるまち

東京2020オリパラ

MIYOSHIオリンピック給食
マレーシアとオランダ料理を給食で提供。トレーニングキャンプに来日したオランダ女子柔道選手と一緒に給食を食べました



パラバドミントン体験会
マレーシアの国技である「バドミントン」のパラ競技体験会を開催しました

国際理解教育出前講座
マレーシアとオランダ大使館による出張講座。両国の歴史、社会、文化、自然等について学びました



ハラール料理講座
多民族国家マレーシアの主流であるイスラム教の教え「ハラール」を理解するために、マレーシアの多様な価値観や文化を学びました
※豚肉やアルコールを口にしない等、食事に関する教え



トレーニングキャンプの様子

**オランダ女子柔道チーム
ホストタウン**
町内にある女子柔道強豪校「淑徳大学」と連携して、オランダ柔道連盟と交渉を進めてきた結果、平成30年4月にオランダのホストタウンとして登録されました。
これを受け、令和3年8月に町民、町内各団体と連携して「2020三芳町ホストタウン交流推進実行委員会」を設立。ホストタウンとしての事業を町ぐるみで推進してきました。

オランダ

I♥MIYOSHI

令和元年
中学生海外派遣
(オランダ)

眞野 夏怜さん



海外に興味があったのと英語が好きだったので参加しました。初の海外だったので、すべてが新鮮で刺激的な経験でした。本当に行くことができ良かったです。英語はカタコトでしたが、何とか意思疎通できました。ホストファミリーはとても優しく楽しい人たちで、一緒に料理やサイクリングをしたり、風車やお花畑などへ連れて行ってもらったりしました。帰国後、派遣前までは自分だけの都合で考えてしまうことが多かったのですが、オランダでの経験を通して幅広く色々な視点で物事を捉えられるようになりました。将来は語学関係や海外に関わるような進路を考えています。英語に自信がなくても、少しでも興味があればチャレンジしてみたいと思いますし、自分のステップアップに確実に繋がると思うので、是非海外派遣に参加してみたいと思います。



眞野さん当時の写真



学術的、農業的及び文化的交流をはじめ多角的な連携を密接に図ることで都市型の農業遺産の重要性を世界に向けて発信し、共に保全活動を推進するために共同宣言を行いました。

中国「宣化区」
2019年(令和元年)10月、既に世界農業遺産に認定されている中国北京市郊外の宣化の「宣化のぶどう栽培の都市農業遺産」と「宣化・武蔵野」共同宣言を行い、都市型の農業の課題や今後の展開について意見交換を行いました。「武蔵野の落ち葉堆肥農法」と「宣化のぶどう栽培の都市農業遺産」は、お互いに都市に近い農業地域で、共通の課題をもっています。
こうした課題や解決策をお互いに共有し、



オーストラリア少年少女親善訪問団受け入れの様子(平成22年6月)

オーストラリア
ブリスベン市アスコット小学校の少年少女親善訪問団を受け入れ、交流しました。平成9年〜平成20年は同市へ中学生海外派遣を行いました。

初の姉妹都市



マレーシア「ペタリング・ジャヤ市」

平成29年12月にマレーシアのペタリング・ジャヤ市(PJ市)と姉妹都市提携を結び、文化・芸術・教育など様々な分野で国際交流を続けています。平成29年11月にPJ市で行われた「PJフォークロアフェスティバル」では竹間沢の里神楽を披露し、町の伝統芸能を世界に発信しました。翌年には弦楽合奏団「アンサンブル凜」も出演し、その演奏は各国の聴衆から絶賛されました。平成30年度はみよしまつりで国際交流フェアを開催。PJ市のプロダンサーやミュージシャンが来町し、マレーシアの伝統的な民族舞踊を披露いただきました。また、中学生海外派遣を行っているアジア・パシフィック・スマートスクール



共生社会ホストタウン

(APS)と町立小中学校との教員相互交流を行い、国際理解教育と英語・外国語活動を推進しました。

パラリンピアンとの交流を契機に、心のバリアフリーやユニバーサルデザインのまちづくりに取り組み、共生社会の実現を目指すホストタウンのことで。令和2年1月マレーシアのパラリンピック委員会に、同国パラリンピック選手団の事前キャンプを提案し、パラリンピック大会後の交流を含めた協定を締結。これまでの町の様々な取り組みが評価され、令和2年3月マレーシアの共生社会ホストタウンとして国より認定されました。共生社会の詳しい内容はP.23〜24をご覧ください。



三芳町
10の魅力
...
共生社会
Inclusive Society

共生社会=障がいの有無、性別、国籍、人種、年齢等に関わらず、すべての人がお互いの人権や尊厳を大切に、支えあい、誰もが生き生きとした人生を送れる社会を目指しています。

We aim to be a society where everyone values one another's human rights and dignity, regardless of impairment, gender, nationality, race, or age: a society which supports everyone in leading a full life.



誰ひとり取り残さず
自分らしく生きられるまち

共生社会ホストタウンに登録

これまで町は手話言語条例の制定や、あいサポート運動などに取り組んできました。令和2年3月、マレーシアの共生社会ホストタウンとして国より認定されたことを契機に、共生社会推進懇談会を発足。心のバリアフリーとユニバーサルデザインのまちづくりを目指し、取り組んでいます。

共生社会ホストタウン

福祉喫茶ハーモニ

障がいのある人と住民、地域が調和する「福祉喫茶ハーモニ」。役場隣のコンビニみよし内にある障がい者就労B型事業所です。みよし野菜を使ったメニューや町のキャラクターの焼き菓子などを販売し、地域活性化にも貢献しています。

※障がいのある方が就労訓練を受けられる福祉サービス



あいサポート運動

障がいがある人もない人も暮らしやすい社会をみんなでつくる運動。障がいを知り、必要な配慮を学ぶ「あいサポーター研修」修了者に「あいサポート」バッジを差し上げています。

三芳太陽の家

心身に障がいのある人が通所し、サービスを受けられる施設で、創作活動や生産活動も行っています。

平成2年に町立施設として事業を開始し、平成23年には社会福祉法人人間東部福祉会に運営を移管。令和3年5月に上富地区から役場敷地内に移転・新築されました。

社会福祉協議会

町の社会福祉向上のために、関連機関や団体、住民の皆さんの参加・協力のもとに活動しています。

シニアのコミュニティ形成や生活相談、経済支援、福祉教育、ボランティアセンター、福祉まつりやバザーなどのイベントも行っています。

**日本語を母語としない子どもたちへ
NPO法人街のひろば**

外国につながる子どもたちや、ひとり親家庭、生活困窮家庭への学習支援と居場所づくりに取り組んでいる法人です。

小中学生を対象に、毎週月・水・金曜日の放課後や夜間に町内の公共施設等において、教員・日本語指導・福祉職経験者や地域の大学生・高校生のボランティアによる無償の補習教室を開催しています。

日本語・学力向上に成果を上げたこと等が評価され、平成28年に内閣府「子どもと家族 若者応援団賞」と埼玉県「埼玉グローバル賞」受賞、平成30年に博報財団「第49回博報賞」を受賞しました。



「広報みよし」
街のひろば

こども食堂

地域の子どもたちやそのご家庭に、食事や安心安全の居場所を提供する活動です。

三芳町には現在12箇所あります(令和3年7月時点)。地域のボランティアによって運営され、食材は地域の農家や企業寄付、募金などによって賄われています。



「広報みよし」
こども食堂



パートナーシップ宣言制度を導入

令和3年4月1日よりLGBTQ+のカップルが相互にパートナーであることを宣誓し、町が証明する制度が始まりました。

東京2020オリンピックのホストタウンであるオランダから教育やLGBTQ+の施策について学ぼうと同国大使館よりお招き頂いたオンラインプログラムに参加しました。

※レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダー等性的少数者の略

**映画「スタートライン」
オンライン上映**

生まれつき耳の聞こえない映画監督・今村彰子さんが自転車で日本を縦断するドキュメント映画。

コロナ禍の令和2年8月、コミュニケーションを題材にしたこの映画をオンライン配信し、町が目指す共生社会について考える機会をつくりました。



中学校での上映会の様子。集会所でも上映会を実施しました。

三芳町認知症サポートセンター

認知症当事者や家族、介護者など誰もが安心して暮らせるまちづくりを進めるために、令和3年10月1日に「三芳町認知症サポートセンター」を開設しました。

認知症介護に関する相談や認知症に関する正しい知識の普及啓発、認知症当事者、家族など誰もが気軽にかけられる居場所づくりなど、認知症施策推進大綱に基づく「共生」のまちづくりを目指します。

I♥MIYOSHI
**三芳町社会福祉協議会
会長
篠原 拓平さん**



三芳町社会福祉協議会の会長になってから早10年が経ちました。活動を今まで続けることができたのも地域住民やボランティアの方々のご協力のおかげです。心から感謝しております。社会福祉協議会の責務は「人を救うこと」。今後は基金の設立や貧困家庭の子供の支援強化など、様々なアクションを起こしながら活動を充実させ、次世代に引き継げるように努めて参ります。

三芳町
10の魅力
…
芸術・文化・スポーツ
Arts, Culture, and Sports

2018年「三芳町芸術文化のまちづくり条例」を制定。また、高齢化が進む中、健康づくりや体力の向上を図るため、誰もが気軽にスポーツ・レクリエーション活動に参加できるよう取り組んでいます。

In 2018, the Miyoshi Town Art and Culture Community-Building Ordinance was established. Given the rapid aging of the population, we are striving to facilitate participation in sports and recreational activities to promote health and increase physical fitness.



感動と創造、
活気あふれるまち

【受け継がれる郷土芸能】

■お囃子

町に伝わるお囃子は、すべて神田囃子の系統といわれ、旧来のゆつくりとしたテンポの「古囃子」と、幕末から明治にかけて各地で盛んに創作された早いテンポの「新囃子」に分けられます。



竹間沢・藤久保・上富地区では「古囃子」、北水井地区には「新囃子」(重松流)が伝えられています。町内に伝わるお囃子は、すべて町の無形民俗文化財に指定され、芸能の保持・向上と後継者育成に努めています。

■里神楽

神楽とは、神社の祭礼に際して神を迎え、舞を奉納する神事芸能です。竹間沢に伝承する里神楽は、前田家が代々家元を務め、各地の神社の祭礼に招かれて舞を奉納し、神楽面の製作も自ら行ってきました。面や道具は県の有形民俗文化財に指定され、舞は町の無形民俗文化財に指定されています。現在も竹間沢の里神楽は、毎年各地の神社で奉納されるほか、県内外での公演や海外でも披露するなど伝統を守りながら町の伝統芸能を世界に広めようと魅了しています。



■車人形

轆轤車に乗って一人の遣い手が人形を操る、国内には3地域のみ現存する貴重な伝統芸能です。約160年前の安政年間、前田家へ伝わり、明治時代には盛んに興行が行われてきた。大正時代になると他の娯楽の台頭や人形との記憶から遠ざかりましたが、昭和46年に県が行った調査で人形と道具が見られると、再び脚光を浴び、復活公演が始まりました。現在ではコピスみよしにおける毎年の公演や、小中学校等での訪問公演を通じて町の伝統芸能を内外に発信し、後継者の育成にも力を入れています。

※木箱の内側に前に一つ、後ろに二つ車輪がついて、人形遣いが座ったまま歩くと前後に動きます。後ろに体重をかけるとう前輪が動いて、自由に方向転換が可能です。

【動画】

竹間沢車人形公演の様子



芸術文化の拠点
文化会館コピスみよし

「ザ・シンフォニエッタみよし」や竹間沢車人形などの鑑賞・公演をはじめ、地域の芸術文化活動の発表・参加など様々な催しが開かれています。コロナ禍においては「無観客でもがんばろー！コンサート」を配信し、芸術文化事業を持続可能にするための支援を呼びかけました。



町のスポーツ拠点
三芳町体育施設

総合体育館(アリーナ)、総合運動場、テニスコート、弓道場からなるスポーツ総合施設。最新のマシンを用意したフィットネスルーム、武道場、多目的室など様々な運動に適しています。



④藤久保1100-11049-258-0311
④年未年給

三芳町体育協会

体育・スポーツを普及させることによって、町民の体力向上を図り、健康で明るい町づくりを寄与することを目的としています。各種スポーツ大会や講習会、レクリエーションの振興などを行い、町の体育スポーツ活動を盛り上げています。野球やテニスなど23の加盟団体と専門部が所属しています。



三芳町体育協会



皆さまの健康・体力づくりのために活動しています！

三芳町スポーツ推進委員
連絡協議会

地域のスポーツ・レクリエーション活動を盛り上げ、町のスポーツ推進体制の整備を図るため、各行政区等から委員が選出されています。子どもから高齢の方までいきいきと健康・体力づくりができるよう、ラケットテニス、ふらばーのバレー、ポッチャやモルックなど誰もが楽しめるスポーツの教室や研修会を開催しています。また、体育祭や駅伝大会、各区で催されるスポーツイベントの協力をしています。



パラ競技体験会や、パラアスリート講演会も実施



みよし大崎ジュニア

小学生を対象としたハンドボールチーム「みよし大崎ジュニア」は総合体育館を拠点として毎週楽しく活動しています。

三芳町にある大崎電気工業の社会人ハンドボールチーム「大崎OSOL」の元選手が指導し、ハンドボールの楽しさはもちろん、思いやりの心、諦めずに挑戦することの大切さ、人と人とのつながりを学ぶことができます。また、他校の児童との交流など貴重な体験もできます。



I♥MIYOSHI

竹間沢里神楽家元
竹間沢車人形保存会 代表
前田 益夫さん



車人形の復活公演をしたのは昭和47年のこと。三芳町が誕生したのが昭和45年なので、町の発展とともに歩んできたようなものですね。当時は会社員でしたので、練習できるのは仕事が終わった後の夜のみ。正直大変でしたが、お客さんに喜んでもらえるのが嬉しくて、今まで続けてこれたと思います。車人形・里神楽ともに伝統のともしびを絶やしてはなりません。公演を見たいという人がいる限り、伝統を守り続けていきます。

三芳町
10の魅力
...
歴史・伝統
History and Tradition



先人から受け継ぎ
未来へ継承するまち

町には、江戸時代の開拓地割景観を今に伝える県指定旧跡「三富開拓地割遺跡」をはじめ33か所の遺跡(埋蔵文化財包蔵地)、古文書などの歴史資料、民具や伝統芸能などの民俗文化財が数多く残されています。

In terms of cultural assets, the town is home to 33 ruins (land that holds buried cultural properties) including the prefecture-designated historic site "Santomi Kaitaku Chiwari Iseki," the remains of groundbreaking work in the Santomi area, which appraises us in the present of landscape of settlements in the Edo period. In addition, the town holds many historical materials such as ancient documents as well as folk cultural properties such as folkcraft articles and traditional performing arts.

歴史

三芳町は、武蔵野の美しい雑木林と、整然と区画された畑を残す町として広く知られています。この姿は大昔からの景観だったのでしようか。三芳町域は、関東ローム層と呼ばれる火山灰が厚く堆積した台地が占め、町の東部に柳瀬川をはじめとする幾つかの小河川が流れるものの、ほとんどが平坦で水に乏しい痩せた土地でした。しかし、三芳に暮らした先人たちは長い年月をかけて、知恵と工夫を凝らしながら今の我が町を築きあげてきたのです。

【原始・古代】

三芳町の曙は約3万5千年前の旧石器時代にさかのぼることが、藤久保東遺跡や藤久保東第二遺跡から発掘された石器によつて明らかにされています。また、藤久保の俣整遺跡からは縄文時代の竪穴住居跡や土器が、竹間沢の本村南遺跡からは弥生時代の方形周溝墓などが発掘され、当時の生活の様子を窺い知ることが出来ます。また、平安時代になると、みよし台一帯には瓦や壺などを焼く窯が築かれました。ここで焼かれた器の中には「福鷹」と刻まれたものもあり、この町内最古の文字で表わされた人物は、当時のこの地方の有力者と考えられます。



【中世・近世】

鎌倉時代から室町・戦国時代の武蔵野は見渡す限りの原野でした。鎌倉武士が馬を走らせたとされる鎌倉街道が藤久保と竹間沢にあり、竹間沢には中世を思い起こ

【近代・現代】

明治22年(1889)4月1日の町村制施行により、上富村、北永井村、藤久保村、竹間沢村が合併して三芳村が誕生。以来、長期間にわたり純農村地帯として歩んできましたが、昭和40年代から高度経済成長とともに首都近郊のベッドタウンとして、また、首都圏の流通基地としてめざましい変貌を遂げ、人口も急増し、昭和45年(1970)に町制を施行、現在は農工商のバランスのとれた町として今日に至っています。



伝統

「三富開拓地割遺跡」
埼玉県指定旧跡

江戸時代の元禄年間、川越藩により開拓が行われた三富新田。三富の開拓は、幅六間(約11m)の道を縦横に開くことから始められ、この道の両側に間口約72m、奥行約67.5m一軒あたり約5haの短冊状の土地が配分されました。一軒分の屋敷割りは、道に面した部分を屋敷地とし、その次に耕作地、最奥を平地林としました。

■屋敷地

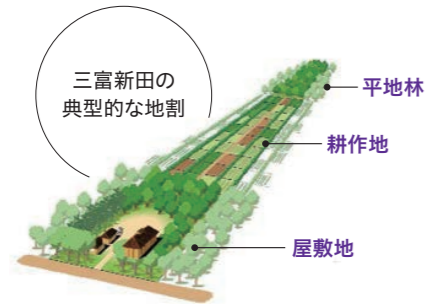
屋敷の周りには、防風林を兼ねて竹・カシ・ケヤキなどが植えられました。平地林とともに屋敷林を育てたことにより、保水力が上がったと考えられています。

■耕作地

一日の耕作の目安となる、5畝単位に区切られています。乾燥した畑の土は、春と冬の季節風により巻き上げられてしまうことがあります。そこで、畑の境に茶の木を植えて風を防ぎました。この茶は「畦畔茶」として春先の重要な作物となりました。

■平地林(雑木林)

薪炭材としての価値が高く、葉が堆肥として利用しやすいナラやコナラの木が選ばれて代々の農家が育ててきました。冬に落ち葉を掃き集めて一年以上かけて堆肥にし、それを畑に投入して土を



「武蔵野の落ち葉堆肥農法」を支える道具たち

落ち葉掃きで使用する「クマデ」、集めた落ち葉を入れる大きなかごを「ハチホンバサミ」と呼びます。クマデは落ち葉が掃きやすいように弾力性と爪のカーブが工夫されています。

ハチホンバサミに詰め込んだ落ち葉は、乾燥状態で重さは約70kg。材料にはマダケを使い、耐久性に優れた道具たちも江戸時代から現代に受け継がれています。



「落ち葉のもう一つの活用」
「苗床」

落ち葉は堆肥として使用されるだけでなく、サツマイモの苗床用の醸熱材として多量に使用されています。熱帯地方原産のサツマイモを早く発芽させて畑に定植させるため、落ち葉の発酵熱を利用してサツマイモの苗を栽培する落ち葉温床が広く用いられ、現代に伝わっています。



みよしの歴史・文化を学ぶ、もっと町が好きになる
歴史民俗資料館

常設展示室では、原始・古代から近世までの時代を追った展示と産業(サツマイモ)・教育(寺子屋)・芸能(竹間沢車人形)に関する展示が行われています。特別展示室兼ギャラリーでは、テーマを絞った企画展や特別展、季節に合わせた歳時記展示などを行っています。また、ちよつとした工作や昔の暮らしを体験できる土曜体験教室なども開かれています。資料館の屋外展示として旧池上家住宅が公開されていますので、訪れた際にはあわせてお立ち寄りください。私たちの住む三芳町。先人が長い年月を費やして築き上げた三芳の歴史を、ぜひ資料館で触れてみてください。(入館無料)



⑧ 竹間沢 877
⑨ 049-25816055
⑩ 月曜・祝日・年末年始

I♥MIYOSHI



武蔵野の落ち葉堆肥農法
実践農業者 阿部農園
阿部 多喜子さん

サツマイモの収穫が終わった1~2月に落ち葉掃きをします。真冬の重労働は大変ですが、翌年、美味しいサツマイモを作るために落ち葉堆肥は欠かせないですし、お客さんからの「美味しかったよ」という声は何よりの励みです。「武蔵野の落ち葉堆肥農法」を続けるには、平地林を守り続ける必要があります。子や孫の世代に継承できるよう、これからも美味しいサツマイモをたくさんの人に届けていきたいです。

ホストタウン相手国・姉妹都市からのメッセージ

Messages from Host Town Partner

Countries and Friendship City

三芳町と所縁のある姉妹都市、東京2020大会ホストタウン相手国と相互に交流を深め、

ともに発展を目指しています。各国大使館、都市からのメッセージをご紹介します。

from Netherlands

ホストタウン



オランダ王国より寄贈されたチューリップ



三芳町が町制施行50周年を迎えられたことを、心よりお祝い申し上げます。
オランダのホストタウンとしてオランダ柔道選手の受け入れやオランダ文化レッスンの開催、LGBTに関するオンラインプログラムへのご参加など、多大なるご協力をいただきありがとうございます。今後も交流関係を深めていければと思います。50周年おめでとうございます。近いうちに三芳町を訪問できることを楽しみにしております。



ペーター・ファン・デル・フリート
駐日オランダ王国大使

from Malaysia

共生社会ホストタウン



ダト・ケネディ・ジャワン
前駐日マレーシア大使



【PR動画】
共生社会
ホストタウン

1970年に町制を施行してから50周年を迎えた三芳町の皆様に心よりお祝い申し上げます。三芳町との長年の友情は、マレーシアの心の中で特別な場所を有していることは間違いありません。コロナ禍におきましてもそれは繁栄し続けています。
町は勤勉な町民によって発展し、町民は愛する町のために従事してきたと私は思っています。
この町の50周年を祝うことは、町民との共通の思い出を振り返り、これまでの町長や地域の指導者、町民の多大なる貢献に感謝するとともに、町のこれからについて思いをはせ、未来を考える機会になると思います。
2012年に三芳町とペタリング・ジャヤ市が姉妹都市になった以来、マレーシアと三芳町の共通の思い出が始まりました。それ以来、双方はこの絆を継続的に強化し、三芳町は東京2020パラリンピックでマレーシアの共生社会ホストタウンとして登録されました。これは、多くの取り組みやプログラムを通じて、双方から培われた継続的な協力とスポーツ精神なしには不可能でした。
最後になりましたが、この場をお借りして、三芳町の成功をお祈り申し上げますとともに、今後も三芳町を通じてマレーシアと日本の共有する絆が揺るぎないものとなることを願っております。三芳町おめでとうございます！

from Petaling Jaya

三芳町初の姉妹都市提携



シャリパ・マハイニ・ビンティ・シェド・アリ
ペタリング・ジャヤ市 副市長

マレーシアのペタリング・ジャヤ(PJ)市は、三芳町町制50周年を迎えた林伊佐雄町長、そして三芳町民の皆様から心からお祝い申し上げます。
三芳町とPJ市は、フレンドリー・シティ協定を締結した2012年以来、親密な友情を築いてきました。両市は2017年12月、三芳町で姉妹都市締結に調印することで更に関係を強化します。これらの経緯を経て、私たちは双方の利益のために多くのプログラムを共に実施しました。PJ市は、三芳町とその地域社会から、特に職場や都市農業における労働安全衛生の仕事について多くのことを学びました。また、2017年と2018年に2年連続でPJフォークロアフェスティバルに三芳町が参加したことを光栄に思います。
2018年と2019年にはPJ国際ユースリーダーシップキャンプに参加した三芳町の学生を迎える機会があり、PJ市の学生に規律と文化に関する新鮮で新しい視点をもたらしました。三芳町の生徒たちもキャンプから学び、PJ市で友だちとコミュニケーションを取り、帰国したことと願っています。
最後になりましたが、PJ市を代表して、三芳町の50周年の大成と、それが町のコミュニティにもたらす将来の成功を祝福したいと思います。

フォトアルバム



みよしまつりで
伝統舞踊を披露した
PJ市のダンサー (2018)



PJフォークロアフェスティバルで
演奏したアンサンブル (2018)



フォークロア
フェスティバル



福祉喫茶ハーモニーでの
オランダ女子柔道チームと
住民交流会 (2018)



トレーニングキャンプで来町し、
小学生と交流した
オランダ女子柔道選手 (2018)

町民の皆様の納税に
心から感謝いたします

納税率
98.9%
県内**3位!**
「令和2年度個人住民税市町村表彰式」
において3年連続
「納税率部門」受賞

民営事業所数
県内町村
1位!
三芳町1,653事業所
総務省・経済産業省
「平成28年経済センサス-活動調査」

令和3年度
保険者努力支援制度
県内**1位!**
国民健康保険者の予防・健康づくり、
医療費適正化などの取り組み状況が
評価されました。
令和3年度保険者努力支援制度の
集計結果(市町村別)

働きにく町
昼夜間人口比率
県内**1位!**
三芳町117.2、埼玉県88.9
昼夜間人口比率が100を超える市町
村は、三芳町をはじめとする6市町
のみとなっています。
総務省統計局「平成27年国勢調査」

数字でみる 三芳町

Miyoshi Town
by the Numbers

コロナ時代の
移住先ランキング
県内**1位!**
関東**4位!**
朝日新聞出版「アエラ」
2020.8.10-17 No.36

町制施行50周年を迎えた
町の特徴をご紹介します。
Here we introduce the characteristics
of our town in celebration of the 50th
anniversary of its townhood.

給水普及率
63.9% (昭和45年) >>> 99.5% (令和元年度)

人口
14,084人 (昭和45年) >>> 37,942人 (令和3年12月末)

世帯数
4,122世帯 (昭和45年) >>> 16,705世帯 (令和2年度)

予算
8.6億円 (昭和45年) >>> 124.2億円 (令和3年度)

医療施設
12箇所 (昭和45年) >>> 48箇所 (令和2年度)

舗装率
4.8% (昭和45年) >>> 53.82% (令和元年度)

職員数
80人 (昭和45年) >>> 282人 (令和3年度)

事業所数
227箇所 (昭和44年) >>> 1,653箇所 (平成28年)

～昔と今～
町制施行50周年

製造品出荷額等
県内町村
2位!
県内20位/63市町村
三芳町2,321億円
経済産業省「2019年工業統計調査」

人口
37,942人
世帯数16,771世帯
令和3年12月末日現在

東京から30kmの
東京に
1番近い町
池袋から
電車で30分!

広報みよし
日本
1位!
平成27年全国広報コンクール
内閣総理大臣賞 受賞

従業者数
県内町村
1位!
三芳町28,042人
総務省・経済産業省
「平成28年経済センサス-活動調査」

人口1人当たりの
年間図書貸出冊数
**20年連続
県内1位!**
1人当たり貸出冊数(令和2年度)
三芳町7.21冊、県平均3.71冊
「令和3年度埼玉の公立図書館」

卸売業、
小売業年間商品販売額
県内町村
1位!
県内24位/63市町村
三芳町1,482億円
総務省・経済産業省
「平成28年経済センサス-活動調査」

農業産出額
県内町村
4位!
県内16位/63市町村
27億7千万円
農林水産省「令和元元年産農業所得統計」

よみ愛・読書のまち

三芳町

50年のあゆみ

Miyoshi Town: 50 Years of History

三芳町

日本

世界

昭和45年(1970)	4月1日	藤久保小学校開校(校舎は昭和46年4月完成) 旧役場庁舎完成	大阪万博開催 初の国産人工衛星打ち上げ成功	
昭和46年(1971)	7月	東入間東部地区事務組合発足	沖縄返還協定調印 環境庁が発足	
昭和47年(1972)	11月	町章決定	札幌五輪開催 沖縄が日本に復帰	
昭和48年(1973)	1月3日	町章決定	山陽新幹線開通	
昭和49年(1974)	12月20日	関越自動車道練馬IC(川越IC開通・三芳パーキング供用開始)	変動相場制スタート	第4次中東戦争 第1次石油危機
昭和50年(1975)	4月1日	三芳小学校第一分教場(上富分校)が独立し、上富小学校開校(校舎は同年11月完成) / 第一保育所開所	エリザベス女王来日	ベトナム戦争終結 第1回世界女性会議開催
昭和51年(1976)	6月18日	三芳中学校の木造校舎を建て替え、新(現)校舎完成	変動相場制スタート	
昭和52年(1977)	3月	三芳小学校東側の木造校舎を建て替え、東(現)校舎完成	エリザベス女王来日	
昭和53年(1978)	4月1日	三芳小学校東側の木造校舎を建て替え、東(現)校舎完成	変動相場制スタート	
昭和54年(1979)	3月	三芳小学校東側の木造校舎を建て替え、東(現)校舎完成	エリザベス女王来日	
昭和55年(1980)	4月	三芳小学校東側の木造校舎を建て替え、東(現)校舎完成	エリザベス女王来日	
昭和56年(1981)	11月15日	「みよし」地区誕生	変動相場制スタート	
昭和57年(1982)	11月16日	第一回産祭開催	エリザベス女王来日	
昭和58年(1983)	4月1日	藤久保公民館開校 / 第三保育所開所	変動相場制スタート	
昭和59年(1984)	4月1日	藤久保公民館開校 / 第三保育所開所	エリザベス女王来日	
昭和60年(1985)	4月1日	藤久保公民館開校 / 第三保育所開所	変動相場制スタート	
昭和61年(1986)	4月1日	藤久保公民館開校 / 第三保育所開所	エリザベス女王来日	
昭和62年(1987)	4月1日	藤久保公民館開校 / 第三保育所開所	変動相場制スタート	
昭和63年(1988)	4月1日	藤久保公民館開校 / 第三保育所開所	エリザベス女王来日	
平成元年(1989)	2月27日	町のマスコットキャラクター「愛称「みらい君」に決定	天安門事件 ベルリンの壁崩壊	初の体外受精児誕生(生殖革命) サッチャー英首相就任
平成2年(1990)	9月2日	三芳生誕100周年記念「みよし100年まつり」開催	消費税3%実施	イラン革命 / 第2次石油危機
平成3年(1991)	11月3日	中央図書館開館 / 町制20周年「みよしまつり」開催	消費税3%実施	イラン革命 / 第2次石油危機
平成4年(1992)	7月	現在地に役場新庁舎が完成し、業務を開始	消費税3%実施	イラン革命 / 第2次石油危機
平成5年(1993)	7月	現在地に役場新庁舎が完成し、業務を開始	消費税3%実施	イラン革命 / 第2次石油危機
平成6年(1994)	7月	現在地に役場新庁舎が完成し、業務を開始	消費税3%実施	イラン革命 / 第2次石油危機
平成7年(1995)	7月7日	三富新田開拓300周年を記念し、旧島田家住宅を移築復元	消費税3%実施	イラン革命 / 第2次石油危機
平成8年(1996)	7月20日	図書館竹間沢分館開館	消費税3%実施	イラン革命 / 第2次石油危機
平成9年(1997)	6月14日	図書館竹間沢分館開館	消費税3%実施	イラン革命 / 第2次石油危機
平成10年(1998)	11月12日	三芳町竹間沢第一土地区画整理事業完成	消費税3%実施	イラン革命 / 第2次石油危機
平成11年(1999)	4月1日	2市2町合併協議会設置(富士見市、上福岡市、大井町、三芳町)	消費税3%実施	イラン革命 / 第2次石油危機
平成12年(2000)	11月	町制30周年記念「広報みよし」縮刷版刊行	消費税3%実施	イラン革命 / 第2次石油危機
平成13年(2001)	4月21日	文化会館コピスみよし開館	消費税3%実施	イラン革命 / 第2次石油危機
平成14年(2002)	10月26日	合併に関する民意を問う住民投票 / 合併協議会解散	消費税3%実施	イラン革命 / 第2次石油危機
平成15年(2003)	4月17日	三芳スマートIC社会実験開始(ハーフ運用)	消費税3%実施	イラン革命 / 第2次石油危機
平成16年(2004)	10月	第4次総合振興計画策定	消費税3%実施	イラン革命 / 第2次石油危機
平成17年(2005)	6月1日	協働のまちづくり条例施行	消費税3%実施	イラン革命 / 第2次石油危機
平成18年(2006)	10月15日	第1回世界一のいも掘りまつり(当時は「世界一のいも掘り大会」開催)	消費税3%実施	イラン革命 / 第2次石油危機
平成19年(2007)	3月	マレーシアのベタリング・ジャヤ市議会とフレンドリーシティ協定締結	消費税3%実施	イラン革命 / 第2次石油危機
平成20年(2008)	4月	旧中央公民館閉館	消費税3%実施	イラン革命 / 第2次石油危機
平成21年(2009)	3月	旧中央公民館閉館	消費税3%実施	イラン革命 / 第2次石油危機
平成22年(2010)	4月	みよし野菜ロゴマーク決定	消費税3%実施	イラン革命 / 第2次石油危機
平成23年(2011)	7月31日	現・中央公民館開館(併設の給食センターは同年4月稼働)	消費税3%実施	イラン革命 / 第2次石油危機
平成24年(2012)	5月15日	三芳スマートIC連結許可日(フル化)	消費税3%実施	イラン革命 / 第2次石油危機
平成25年(2013)	7月	第5次総合計画策定	消費税3%実施	イラン革命 / 第2次石油危機
平成26年(2014)	6月	よみ愛・読書のまち宣言	消費税3%実施	イラン革命 / 第2次石油危機
平成27年(2015)	3月	「武蔵野の落ち葉堆肥法」が日本農業遺産に認定	消費税3%実施	イラン革命 / 第2次石油危機
平成28年(2016)	3月	「武蔵野の落ち葉堆肥法」が日本農業遺産に認定	消費税3%実施	イラン革命 / 第2次石油危機
平成29年(2017)	12月	マレーシアのベタリング・ジャヤ市と姉妹都市提携	消費税3%実施	イラン革命 / 第2次石油危機
平成30年(2018)	4月27日	東京2020オリンピック・ジャヤ市と姉妹都市提携	消費税3%実施	イラン革命 / 第2次石油危機
令和元年(2019)	2月12日	三芳町藤久保第一土地区画整理事業完成	消費税3%実施	イラン革命 / 第2次石油危機
令和2年(2020)	4月1日	三芳生誕130周年イベント開催	消費税3%実施	イラン革命 / 第2次石油危機
令和3年(2021)	2月28日	東京2020オリンピック・ジャヤ市と姉妹都市提携	消費税3%実施	イラン革命 / 第2次石油危機
	6月	広報みよし1000号発行	消費税3%実施	イラン革命 / 第2次石油危機
	11月13日	三芳町富士塚土地区画整理事業完成	消費税3%実施	イラン革命 / 第2次石油危機
	7月6日	東京2020オリンピック聖火リレー実施	消費税3%実施	イラン革命 / 第2次石油危機
	10月21日	三芳町北松原土地区画整理事業完成	消費税3%実施	イラン革命 / 第2次石油危機

半世紀にわたる三芳町の軌跡を日本と世界の主要な出来事とともに振り返ります。



ふるさとアルバム

1970年



町制施行記念式典が開催された三芳中学校体育館(同年に完成)。初代町長より、町制施行が高らかに宣言されました。

1965年



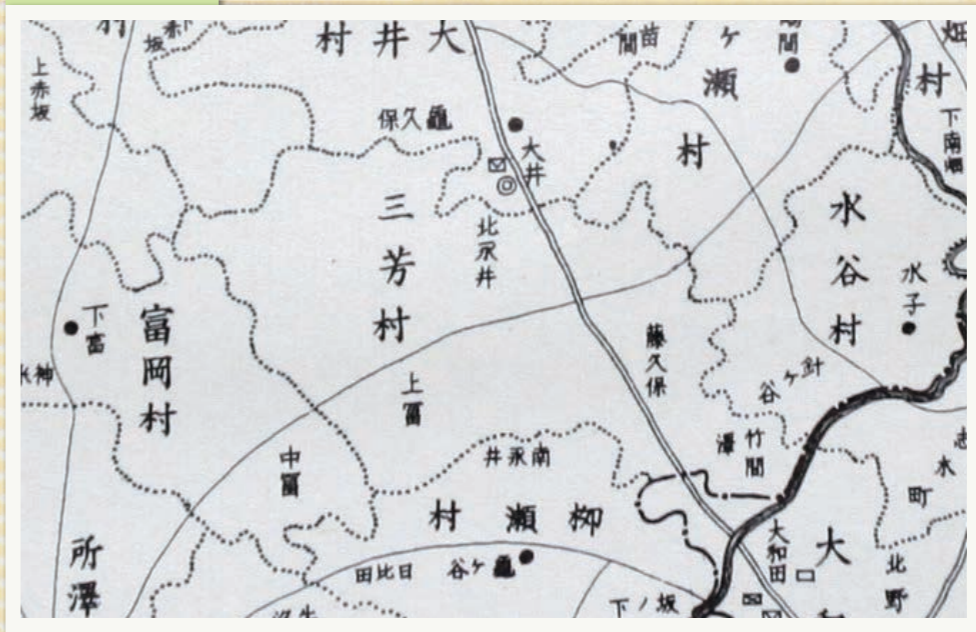
旧中央公民館の新築工事にあたり地鎮祭を執り行う様子。この頃はまだ三芳村でした。

1970年



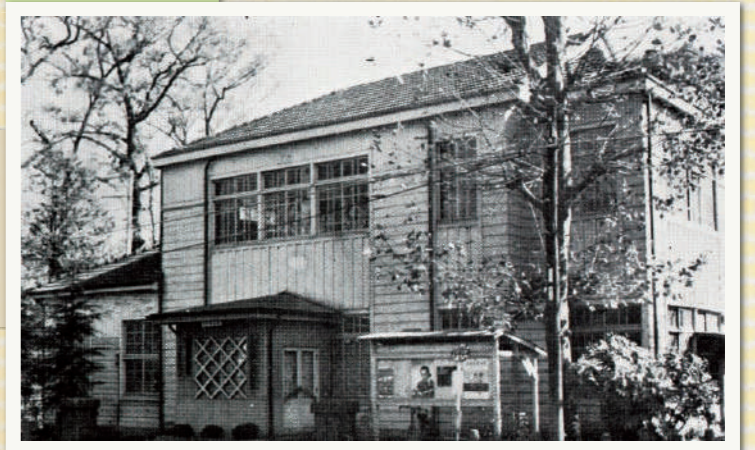
藤久保の鎌倉街道の様子です。未舗装で交差点には信号もなく、古道の面影が残ります。

1889年



明治22年の三芳村近辺の地図。上富・北永井・藤久保・竹間沢の字名が記され4村で合併したことがわかります。

1965年



三芳がまだ村だった頃、北永井にあった三芳村役場。現庁舎の前は北永井に旧庁舎がありましたが、これは更にひとつ前の庁舎です。

1970年7月



北永井に建築された旧役場庁舎(地下1階地上4階建)。業務の増加に伴い庁舎が手狭になったため、1982年には鉄骨三階建ての第二庁舎が南側に増築されました。藤久保にある現在の役場庁舎は1994年に建築されたものです。

1972年



かつて竹間沢に伝わっていた車人形芝居が50年ぶりに復活公演した時の様子。会場となった中央公民館は200人を超える観客で大盛況となりました。

1983年



町の移動図書館、けやき号が学校をまわっていました。古くから三芳町には、活発に読書する子どもたちがたくさんいました。

1985年



川越街道の三芳町藤久保南歩道橋から川越方面を望む。家を強風から守る、屋敷林が多く残っています。

1989年



「三芳生誕百年」を記念して生まれた町のキャラクターみらい君。写真はその初代着ぐるみです。今とは少し雰囲気が違いますね。

1970年



江戸時代に杉並木として整備された川越街道藤久保の並木。杉の巨木は環境の変化で姿を消し、現在は写真に写る松の木が数本残るのみとなっています。

1970年



上富の県道334号下組交差点から北方向を望む。砂利道だった六間道の舗装工事の様子。歩道もなく、開拓当時の道幅をとどめています。

1970年



現在の藤久保第一公園から鶴瀬駅方面を見た景色。このころは一面に畑が広がっていました。

1971年



三芳小学校前交差点。信号機に視認性を高めるためのゼブラ柄の背面版がついています。

「働くことが嬉しい」

三芳太陽の家では、地産地消の食材を使用し、お弁当やお菓子を作っています。

野菜を切ったり、クッキーを袋詰めしたりする作業が楽しいし、「美味しかった」と言ってもらえると嬉しいです。



福祉喫茶ハーモニーでは
飲食できます！

人間東部福祉会 三芳太陽の家の皆さん

「森と緑を 次世代につなぐ」

今年で活動14年目。藤久保の平地林の保全活動を月3回行っています。2018年には「彩の国 埼玉環境大賞」を受賞しました。

緑を守るボランティアも随時募集しています！



みよしグリーンサポート隊の皆さん

「子育てしやすい」

数年前、近隣市から引っ越してきました。公園が多いのでよくお散歩したり、子育て支援センターを利用したりしています。

子どもにはこの町でのびのびと元気に育ってほしいです。



子育て支援センター「なかよし広場」に参加した福島さん一家

次の50年へ！

未来へつなぎたい

いいね

Awesome

「♡」みよし

「♡」Miyoshi Town

「国際交流が盛んな」

平成26年にマレーシアでの中学生海外派遣に参加しました。英語ができなくても「自分には無理」と諦めずに、ぜひ参加してほしいです。

海外での経験は未来の自分の糧になります。



当時の写真



大学4年生
小林廉さん

「健康でいきいきと暮らせる」

近隣自治体から羨ましがられるくらい、町のスポーツは充実しています。

これからも様々な運動の機会を提供していきたいです。住民の皆さんのご参加をお待ちしています。



スポーツ推進委員の皆さん

住民の皆さんに町の魅力や
想いを聞きました。

「団結力で未来を拓く」

地元住民も地方から引っ越してきた人も皆で力を合わせてきたから今の三芳町があると思います。区長会も環境や地域の違う代表者の集まりですが、一丸となって未来に繋がられるよう頑張ります。



区長会の皆さん



町章

三芳町の片仮名「ミヨシ」を円形にデザインし、融和と団結を表すとともに、中央にはばたく鳥が図案化され、町の躍進と産業の発展を象徴しています。



町の木「けやき」

けやきは町内に多く見られ、四季を通じて情緒があり、早春の発芽の美しさは、樹形の雄大さとともに関東の風物詩となっています。限りなく大きく育つけやきは、町を象徴するにふさわしいとして、町の木に決めました。



町の花「きく」

きくは、別名をチギリグサ・モモヨグサなど長寿にちなむ名で呼ばれ、四季を通じて町内のあちこちに、豊かな趣をそなえています。町民の長寿を願うものと、春夏秋冬を見ることのできる「きく」は、町を象徴するにふさわしいとして、町の花に決めました。



町の鳥「ひばり」

ひばりは、四季を通じて生息する鳥で、古くから私たちの生活とはなじみが深いものです。都市化の進むなかにあって、折に触れその鳴き声を耳にすると、心のやすらぎを感じ、かつての武蔵野が偲ばれます。

みらいくん

三芳生誕100年を記念し、1989年に町のキャラクターとして誕生。1989年に三芳町に在住している方々から名称を募集したところ250点もの応募がありました。その中から三芳の未来を創るマスコットということで「みらいくん」と名付けられました。みらいくんは「水の精」で一滴の「水のしずく」がやがて流れとなり、川となって大海にそそぐ、その自然界の源ともいべき「しずく」、そしてすべての生命の源でもある「しずく」のいきいきとした躍動感を表したものです。



マスコットキャラクター

のぞみちゃん

町制施行40周年を記念し、2010年にみらいくんのガールフレンドとして誕生。みらいくんと一緒に三芳町のために様々な場面で活躍中。2010年に三芳町に愛着のある方々から名称を募集したところ533点もの応募がありました。その中から町の豊かな大地で生まれた生命が、やがて大きな実りをもたらすことをイメージし、町の未来が希望に満ちたものになることを願い「のぞみちゃん」と名付けられました。

おわりに

村から町へ～お陰様で50年。

三芳町が町制を施行した昭和45年、日本は高度経済成長の真っただ中にありました。純農村地域であった当町も、昭和40年代から首都近郊のベッドタウンとして、また、首都圏の流通基地として目覚ましい変貌を遂げたことで人口が急増し、現在は美しい緑と自然が残る農工商のバランスのとれた町として今日に至っています。

この記念誌は、この地を開拓し継承してきた先人たちの思いや伝統を大切にしながら、未来の世代に残したい伝えたい町の魅力をまとめたものです。

「念ずれば花ひらく」(坂村真民)という詩があります。これまで多くの町民の皆様のご願いと思いが多くの花を町に咲かせてきました。これからも町の発展と町民の皆様のご幸せを願い、たゆまぬ努力を続け、次の100周年に向けて大輪の花を咲かせられるよう邁進してまいります。そして子どもからお年寄りまで夢と希望を持てる魅力あふれるまちづくりを、これからも町民の皆様とともに進めてまいります。

ご登場いただいた皆様にあらためて厚く御礼申し上げますとともに、本誌が町民の皆様のご更なる郷土愛の醸成に繋がり、また、町外の皆様にも町の良さを知って頂ければ幸いです。

Conclusion

From a Village to a Town: the grace of 50 years.

When Miyoshi attained its townhood in 1970, Japan was in the midst of high economic expansion. Our town, then an untouched rural area, has witnessed great changes and a rapid increase in population due to its remarkable transformation as a commuter town located near the suburbs of the capital from the mid-1960s to mid-1970s and as a distribution base in the metropolitan area. It is now a town characterized by a balance of agriculture, industry, and commerce, while retaining its greenery and natural beauty.

This commemorative publication presents Miyoshi's charms, which we hope to pass on to future generations, while valuing the sentiments and traditions of our predecessors who pioneered and passed on this land.

There is a poem by Sakamura Shinmin: "Pray, and the flowers will blossom." The prayers and aspirations of many townspeople have led to the blossoming of many flowers in Miyoshi. We will continue to pray for the development of the town and the happiness of the townspeople and to work tirelessly to inspire a grand blossoming by the next centennial. We will continue to work with the townspeople to build an attractive community, one that inspires everyone from children to the elderly to nurture dreams and hopes.

We express our profound gratitude to all contributors, in hopes that this publication will further nurture love for our hometown. It is hoped that people from outside Miyoshi will also discover the town's promise hereby.



三芳町長

林 伊佐雄



発行/三芳町 令和4年3月

企画・編集/三芳町

〒354-8555 埼玉県入間郡三芳町大字藤久保1100-1

TEL 049-258-0019

URL <http://www.town.saitama-miyoshi.lg.jp/>

印刷/岩岡印刷工業株式会社

写真協力/千代田 路子 様(竹間沢車人形)

※取材・撮影は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に配慮し実施しています。

おかげさまで50年



いいね「♥」三芳町。
町制施行 50周年

